

<p>以下項は新漢語に對する「概念の喰ひ違ひ」に至った経路を示す。</p>	<p>西歐 (「甲圖：テキスト P8」)</p>	<p>日本(近代化適應異常 = 新漢語への距離感缺如) (「乙圖：テキスト P9」)</p>
<p>「近代化」の差異・・・ (参照：拙論《此處が解りにくい福田恆存》 P 9)</p>	<p>「近代を過去のアンチテーゼとして成立せしめる歴史的一貫性」</p>	<p>西歐の模倣 = 日本は西歐の「科学製品は輸入できても(左項の)科学精神は移植できなかつた」(『近代日本文学の系譜』)</p>
<p>その爲にどうなるか</p>		
<p>近代化によつて齎された觀念・概念の彼我の差。 「甲圖：テキスト P8」と「乙圖：テキスト P9」との違ひ。</p>	<p>甲圖：西歐は近代化(近代國家・近代精神)を「神の棲む國」・「神に型どれる人間の概念の探求」と言ふ形で統一していつたのである。(参照：『現代人の救ひといふこと』)</p>	<p>乙圖：西歐近代の各種概念や觀念(言葉)の「自己所有化」が日本は出來なかつたのである。 新漢語に對する距離感の缺如。・・・それは何故か。「言葉との距離測定」が出来ないのは、「それが身につく土壤が日本に欠けてゐるから」</p>
<p>その爲にどうなるか</p>		
<p>「甲圖：テキスト P8」 = 近代國家と、 「乙圖：テキスト P9」 = 非近代國家との違ひ。</p>	<p>甲圖：近代國家 實證精神により「九十九匹(A)」上に客體化。 *「二つ(個人的・國家的)のエゴイズム(A 上)が互ひに抗爭し、更にその背景で兩者が宗教的良心(B C)と抗爭するといふ試煉の下で近代國家は成長して行つた」(P 328) 甲圖</p>	<p>乙圖：非近代國家では、甲圖の近代的觀念・概念が日本人の物として客體化(「九十九匹(A)」化)されず、自己欺瞞・自己保存の「護符・後楯」として権威化する。 「階級的エゴイズムの後楯化」 C 2化。(日本人の精神主義的構圖の特質)</p>
<p>その爲にどうなるか</p>		
<p>「平和」とは：</p>	<p>「戦爭の缺如状態」 = 消極的概念</p>	<p>「平和」の積極的概念或いは絶對的価値化。・・・人情の自然(A : 本能・エゴイズム・集団的自我)の絶對価値化。即ち「生命第一主義」 「絶對平和主義」。(「平和」は「生</p>

		<p>命保存本能」の代用語：参照 P 12 6 全五）</p> <p>* 新漢語 = 自己欺瞞・自己保存(エ ゴイズムの「護符・後楯」化。 (C 2 化)</p> <p>* 西欧的二元論（甲圖）不在によ る、「一元論的絶対主義への転化 (乙圖) = 相対主義の泥沼？」</p>
--	--	---